

日本臨床歯周療法集談会

JCPG

JAPAN CLINICAL PERIODONTAL GROUP

第23回学術大会

Back to the basic!

——あふれる情報に惑わされないために——



2006年11月18日・19日／日本青年館

今回の学術大会の総合テーマは「Back to the basic !—あふれる情報に惑わされないために」です。いうまでもなく現代人はインターネットをはじめとする多くのメディアを通じて、日常的に膨大な情報をシャワーのように浴びて過ごしています。われわれのような専門領域の仕事を持つ人間にとっては最新の情報をキャッチアップするために専門書や専門雑誌を読んだり、講演会や研修会を受講する機会が多く、この事情にさらに拍車がかかっているといえます。むろん、新しい医療情報に敏感であることは医療人である以上必須のことですが、次々と新しい知識や技術を取り入れることに追われるより、日常臨床のルーティンワークをきちんとできる知識と技術こそ、ほんとうは私たちにとって最も大切なことではないのか、そう考えた企画委員の方たちが何度も会合を重ねて今回のテーマを企画してくれました。

大きく変貌しつつある歯科医療環境の中で、変わらない臨床のエッセンシャルは何かを私たちは見つめたいと思います。先行き不透明だからこそ目先の華やかな情報に振り回されず、本質をしっかりと見抜く力が求められていると確信するからです。

自分自身を客観的にみつめなおすまたとないチャンでもあります。未来型歯科診療を力強く構築するためにも、基盤となる歯周治療の基本に立ち返り、あふれる情報を“コントロール”するためのヒントを今回の学術大会の中から手に入れていただきたいと願っています。

会期 平成18年11月18日(土)・19日(日)

会場 日本青年館(東京都新宿区霞岳町15番地 Tel 03-3401-0101)

国際ホール(3F), 中ホール(B1F), 301・302号研修室(3F), 501号研修室(5F)

受付	国際ホール入口(3F)	18日(土) 12:00より 19日(日) 8:30より
講演	国際ホール(3F), 301号研修室(3F) 302号研修室(3F) 国際ホール(3F), 中ホール(B1F) 301号研修室(3F), 302号研修室(3F)	18日(土) 13:00~17:00 19日(日) 9:00~16:30
実習	501号研修室(5F)	18日(土) 13:00~17:00
夜の分科会	会場は当日ご案内	18日(土) 20:00~22:00
ポスター展示 歯科医師部門 歯科衛生士部門	3Fフロアー(3F)	18日(土) 終日
ポスターセッション発表 歯科医師部門 歯科衛生士部門	3Fフロアー(3F)	19日(日) 12:30~13:30
協賛企業展示	国際ホール前ロビー(3F)	終日

*登録の際は、あらかじめ送付されている受講票を受付に提出し、名札は見やすい所に付けて下さい。

*会場は禁煙となっていますので、喫煙は喫煙所にてお願いいたします。

<11月18日(土) 12:00開場>

13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
国際 ホール (3F)	●講演●13:00～17:00 ライフステージに応じたフッ化物応用の考え方 眞木吉信			
301号 (3F)	●体験講座●13:00～15:00 体は大きな頭脳体です 小澤直子		●体験講座●15:00～17:00 アロマテラピーでストレスケア ーストレスコントロールに有効なアロマテラピーについてー 小塚友美	
302号 (3F)	●講演●13:00～17:00 ペリオとオクルージョンを考えた治療計画 亀田行雄 松島正和 中田秀邦 齋間直人			
501号 (5F)	●実習●13:00～17:00 SRP実習ベーシック			

●ポスター展示●13:00~17:00

歯科医師部門, 歯科衛生士部門 (3Fフロア)

<11月19日(日) 8:30開場>

9:00	10:00	11:00	12:00	13:30	14:00	15:00	16:00
中 ホール (B1F)	●講演●9:00~10:30 歯科臨床における食事 指導の可能性を求めて 丸森英史・鈴木祐司・石原寛巳	●講演●10:30~12:00 術者磨きを科学する 遊佐典子		●講演●13:30~15:00 歯科用小型X線CT(3DX)の 基本性能と歯周病への応用 新井嘉則	●講演●15:00~16:30 歯周治療の本質を 再考する 伊藤公一		
国際 ホール (3F)	●講演●9:00~11:00 今だから 歯周外科手術の基礎 木下淳博	●講演●11:00~12:00 歯周治療における 今後の課題 辰巳順一		●講演●13:30~14:30 歯周治療における 今後の課題 辰巳順一	●講演●14:30~16:30 インプラント審美修復における 生物学的比率の概念 榎本紘昭		
301号 (3F)	●講演●9:00~12:00 MTMでベストポジションへ —MTMの実際と留意点— 渡辺隆史			●講演●13:30~15:00 歯周治療における 矯正治療の活用 内田剛也	●講演●15:00~16:30 インプラント治療の アシスタントワーク 大須賀幸子		
302号 (3F)	●講演●9:00~12:00 <愛・歯周博> —長期経過から見た歯周病の問題点— 清水雅雪			●講演●13:30~15:00 歯周外科のハウ・ツー —切開から縫合まで— 小林和一	●講演●15:00~16:30 NiTi製エンジン用 ファイル 速見勝彦		

●ポスターセッション発表●12:30~13:30

歯科医師部門, 歯科衛生士部門 (3Fフロア)

国際ホール入口 (3F)

受付開始 (12:00～)

国際ホール (3F)

●講演● (13:00～17:00)

ライフステージに応じたフッ化物応用の考え方

.....眞木 吉信 (東京歯科大学 衛生学講座教授)

301号研修室 (3F)

●体験講座● (13:00～17:00)

13:00～15:00

体は大きな頭脳体です

.....小澤 直子 (アートヨガ・ムーヴ主宰)

15:00～17:00

アロマセラピーでストレスケア・ストレスコントロールに有効なアロマセラピーについて—

.....小塚 友美 (アロマセラピスト, 心理カウンセラー)

302号研修室 (3F)

●講演● (13:00～17:00)

ペリオとオクルージョンを考えた治療計画

.....亀田 行雄 (かめだ歯科医院)

／＜共同演者＞松島 正和 (松島歯科医院)・中田 秀邦 (中田歯科医院)・齋間 直人 (さいま歯科医院)

501号研修室 (5F)

●実習● (13:00～17:00)

SPR実習ベーク

夜の分科会の会場は
当日ご案内

●夜の分科会● (20:00～22:00)

「みんなで泊まって勉強しよう」

3Fフロア (3F)

●ポスター展示● (終日)

歯科医師部門 (5題)

歯科衛生士部門 (6題)

国際ホール前ロビー (3F)

●協賛企業展示● (終日)

国際ホール入口 (3F)

受付開始 (8:30~)

国際ホール (3F)

●講演● (9:00~16:30)

9:00~11:00

今だから歯周外科手術の基礎

.....木下 淳博 (東京医科歯科大学歯学部/口腔保健学科教授)

11:00~12:00, 13:30~14:30

歯周治療における今後の課題

.....辰巳 順一 (明海大学歯学部/口腔生物再生医工学講座 歯周病学分野助教授)

14:30~16:30

インプラント審美修復における生物学的比率の概念

.....榎本 紘昭 (新潟県三条市/榎本歯科医院)

中ホール (B1F)

●講演● (9:00~16:30)

9:00~10:30

歯科臨床における食事指導の可能性を求めて—歯周病治療から学校における保健指導までのあゆみ—

.....丸森 英史/鈴木 祐司/石原 寛巳
(神奈川県横浜市/丸森歯科医院/鈴木歯科医院/石原歯科医院)

10:30~12:00

術者磨きを科学する

.....遊佐 典子 (フリーランス)

13:30~15:00

歯科用小型X線CT(3DX)の基本性能と歯周病への応用

.....新井 嘉則 (松本歯科大学/総合歯科医学研究所教授)

15:00~16:30

歯周治療の本質を再考する

.....伊藤 公一 (日本大学歯学部/歯周病学講座教授)

301号研修室(3F)

●講演●(9:00~16:30)

9:00~12:00

MTMでベストポジションへ—MTMの実際と留意点

.....渡辺 隆史(福島県いわき市/小滝歯科医院)

13:30~15:00

歯周治療における矯正治療の活用

.....内田 剛也(神奈川県川崎市/内田歯科医院)

15:00~16:30

インプラント治療のアシスタントワーク

.....大須賀 幸子(東京都新宿区/河津歯科医院 歯科衛生士主任)

302号研修室(3F)

●講演●(9:00~16:30)

9:00~12:00

<愛・歯周博>—長期経過から見た歯周病の問題点—

.....清水 雅雪(名古屋市中村区/清水歯科医院)

13:30~15:00

歯周外科のハウ・ツー—切開から縫合まで—

.....小林 和一(東京都世田谷区/小林歯科医院)

15:00~16:30

(臨床の実際) NiTi製エンジン用ファイル—破折防止と効率化達成のために—

.....速見 勝彦(神奈川県横浜市西区/速見歯科医院)

3Fフロア(3F)

●ポスターセッション発表(歯科医師部門)●(12:30~13:30)

アンテリアガイダンスを考慮した1症例

.....畑中 秀隆(アン歯科クリニック)

3Dリンガルアーチを使用したMTMの応用

.....本郷 拓(国立デンタルオフィス)

インプラント治療の導入に際して構築した当院の治療システム

.....武居 純(タケスエ歯科医院)

自然挺出を用いて垂直性骨欠損に対応した一症例

.....横田 悟(東京医科歯科大学歯周病学講座)

自家歯牙移植を選択し大白歯咬合支持獲得に努めた一症例

.....栗林 拓也(中田歯科医院)

●ポスターセッション発表(歯科衛生士部門)●(12:30~13:30)

機械的歯面清掃を取り入れませんか?—PMTCを行う際の便利Goods—

.....青木 俊子(株式会社 ヨシダ 機械営業本部 開発部)

隣接面着色物の効率的な除去について

.....小林 美和子(土岐歯科医院)

歯周治療における、歯間ブラシの重要性

.....添田 夏世(小林歯科医院)

アンケート調査に基づく患者さんの本音

.....大野綾子, 布施川和恵, 牧 宏佳(ナオ歯科クリニック)

歯周治療における根面う蝕を防ぐためのサリバテストのすすめ方

.....椎名 希(佐藤歯科医院)

歯ブラシの特徴を活かしたブラッシング指導

.....中村 真奈(小林歯科医院)

国際ホール前ロビー(3F)

●協賛企業展示●(終日)



ライフステージに応じた フッ化物応用の考え方

眞木 吉信

東京歯科大学 衛生学講座教授

フッ化物の応用は、医学・歯科医学の中で歴史的に長い疫学研究の背景を有し、しかも生命科学で実証されている疾病予防の手段である。しかしながら、これまでフッ化物応用は、歯冠部う蝕の好発時期である幼児期と学童期のう蝕予防に焦点があてられ、それ以降の成人期や老年期における応用についての議論や研究が報告されるようになったのは、先進諸国における小児期のう蝕の激減と少子・高齢化社会の現実が認識され、成人および老年者の歯根面部のう蝕の状況が問題とされるようになった1980年代以降のことである。さらに、わが国における歯根面う蝕の実態とその予防に関する研究報告が見られるようになったのは、欧米諸国に遅れること10年、1990年代以降である。

このような歯根面う蝕はまた歯周疾患の状況とも関連しており、Supportive Periodontal Therapyにおけるフッ化物応用の位置づけなどが考慮されるべきだと考える。また、高濃度のフッ化物には抗菌作用もあることから、成人・老年者の場合はう蝕予防に限定されない効果も期待されるところである。今回は幼児期から高齢期までライフステージに対応した日本における一般的なフッ化物応用法とその推奨時期を提唱するとともに、個々の口腔環境およびリスクの高低を考慮したフッ化物応用プログラムを提案してみたい。

<略歴>

1978年 東京歯科大学 口腔衛生学講座 助手
1985年 東京歯科大学 口腔衛生学講座 講師
1987年～1989年 ルンド大学歯学部口腔微生物学講座（スウェーデン政府給費留学生）
2000年 東京歯科大学 口腔衛生学講座 助教授
2002年 東京歯科大学 衛生学講座 教授





体は大きな頭脳体です

小澤 直子

「アートヨガ・ムーヴ」主宰

アートヨガは、体の操法を知の操法とする新しいヨガの体系です。脳は、手や足、背骨、内臓と密接にかかわりあっているのです。体のあり方が脳のはたらきをよくしたり、逆に鈍らせたりもします。それを踏まえ、「体は大きな頭脳体」という考えのもとに編み出した操法が、アートヨガなのです。

体がどんな状態で、どんな使われ方をしているかによって、心や脳のはたらきは変わってきます。たとえば、前屈みの人が胸を開いて肩の力を抜き、呼吸と姿勢を変えただけで、心が楽になったり、意欲がわいてきたりします。

体を少し動かしてあげると、体はだんだんみえてきます。体がみえてくれば、心の中もみえてきます。でも、体を動かすことをおっくうに思っている人は意外に多いようです。

この講座では、いつ・どこででも出来るアートヨガの基本メソッドを行いながら、体のいろいろな可能性について考えてみます。「わたしは体が硬くて」としりごみしている人でも、アートヨガなら大丈夫。腰が硬い人のひじをトントンとたたいたら、腰がぐーっとそれるようになったり、頭蓋骨を少し上に引き上げたら、頭がすっきりして、前屈もすーっと楽にできるようになったり、首がまわらなくなったひと足首をちょっと刺激してあげたら、首がぐるりとまわったり……。そんな体の不思議を、この講座で体験してください。

しなやかな体づくりがしなやかな知性を生み、背骨と腰の強化が強い意志力を生みます。心と脳と体のほぐしかたを知って、おおいにリフレッシュしてください。

<略歴>

1954年生。1983年より東京で「アートヨガ・ムーヴ」を主宰。従来のヨガとはまったく一線を画した形で、体を大きな頭脳体として捉え、明晰な頭脳と体をつくるオリジナルの「アートヨガ」を体系化。芸術家をはじめ、多くの研究者や教育関係者の支持を受ける。2004年4月から、NHK教育テレビ「からだであそぼ」中の「ほぐしあそび」を指導。

<主な著書・論文等>

『脳をひらく体』、『超感覚ヨガ入門』（以上、河出書房新社）／『子どもとからだを勉強する』（初出、クレヨンハウス）／絵本『からだであそぼう・あし』『からだであそぼう・て』『からだであそぼう・かた』（以上、ポプラ社）／DVD『小澤直子のアートヨガ・基本メソッド』（学研）





アロマテラピーでストレスケア

—ストレスコントロールに有効なアロマテラピーについて—

小塚 友美

アロマテラピスト、心理カウンセラー

「ストレス社会」といわれるようになってもう長い年月が経ちますが、まだストレスによって心身のバランスを崩してしまう心身症や神経症、うつ病が増加しています。心とからだは表裏一体です。心のケアと一緒に身体のケアをしていくことがストレスケアには大切といえるでしょう。アロマテラピーは植物から抽出されたエッセンシャルオイル（精油）の薬効・抗菌力・芳香作用を利用した植物療法です。心とからだの両面に同時に働きかけてくれます。近年では心療内科、精神科、産婦人科、内科等で患者さんのケアに取り入れられるようになってきました。今回は私自身が心療内科や婦人科で行ってきたアロマテラピーをお伝えし、また、実際にアロマテラピーの体験（芳香療法やハンドマッサージを予定）を通して心身に対する効果や香りの不思議さ、楽しさを感じていただきたいと思います。

<略歴>

総合病院および企業にて看護師として8年間勤務の傍ら、心理カウンセラーの資格を取得。ついでアロマテラピーを学ぶ。心理カウンセラーとして心療内科で4年間の臨床経験を経てフリーとなる。現在は株式会社ピースマインドのカウンセラー、ハイズ相談室カウンセラー、飯島医院専任アロマテラピスト、アロマカウンセリングスクール開催等で活躍している。





ペリオとオクルージョンを考えた治療計画

亀田 行雄

埼玉県川口市／かめだ歯科医院

歯周疾患の原因は細菌感染による炎症であり、力ではないことが言われてきた。そのためプラークコントロールを徹底することが第一であり、反論の余地はない。しかし臨床においては、炎症と力の共同破壊で歯周病が進行することも多い。

今回4名の演者がオクルージョンの問題を抱えた歯周疾患症例を提示し、治療計画立案時に何を考え、どのように治療したか供覧する。

<共同演者>

松島 正和

(松島歯科医院)

中田 秀邦

(中田歯科医院)

齋間 直人

(さいま歯科医院)

<略歴>

1988年 東北大学歯学部卒業

1994年 埼玉県川口市にて開業、現在に至る

<役職>日本顎咬合学会理事・指導医／日本臨床歯周療法集談会（JCPG）常任理事

<主な論文>

「デジタル画像により様変わりする歯科技工士への情報伝達」, 日本歯科評論, No.739 : Vol.64 (5), 2004. ほか多数





今だから歯周外科手術の基礎

木下 淳博

東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科教授

近年、組織再生誘導法、エムドゲイン[®]投与手術、自家骨移植術等、さまざまな歯周組織再生療法が確立し、あわせてインプラント手術も広く普及しています。

臨床研究によって再生療法の効果は証明されていますが、その成否は歯周外科手術一般における各ステップの判断、手技にも大きく左右されます。すなわち手術前の炎症のコントロール、適応症判断、切開、剥離、搔爬、投与、埋植、縫合の各段階では、気をつけなければならない細かいコツが多々あり、どのくらい多くのコツや注意点を守ることができるかが、個々の手術の成否を大きく分けることになります。

講演では、歯周外科手術を行う際のコツや注意点、例えば「手術部位から剥離子を入れてはならない」、「血液を吸うためにサクションしているのではない」、「縫合は縛ってはならない」などをいくつか紹介し、さらに歯科衛生士との連携を考慮して、歯周外科前の着眼点・口腔衛生指導の要点についても触れる予定です。

紹介する細かい引き出しが、論文に書かれているような手術成果を得るために少しでも参考になれば幸いです。

<略歴>

1963年 東京日生
1987年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1992年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 助手（歯科保存学第二講座、第二保存科）
1994年 東京医科歯科大学歯学部 助手（歯科保存学第二講座）
1998年 Visiting Instructor, Harvard School of Dental Medicine, Boston, MA
2000年 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 生体支持組織学系専攻 生体硬組織再生学講座 歯周病学分野 助手
2004年 東京医科歯科大学 歯学部 口腔保健学科 口腔健康推進統合学講座 口腔疾患予防学分野 教授（～現在）



<主な役職>

東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科衛生士室 室長
東京医科歯科大学 歯学部附属病院 歯科医療情報センター センター長

<主な著書・論文等>

主な原著

Kinoshita A: Effects of Recombinant Human Bone Morphogenetic Protein-2 and Enamel Matrix Derivative on the Regeneration of Periodontal Tissues. The Bulletin of Kanagawa Dental College 34(1), 85-87, 2006.

Sorensen RG, Wikesjö UME, Kinoshita A, Wozney JM: Periodontal repair in dogs: Evaluation of a bioresorbable calcium phosphate cement (CeredexTM) as a carrier for rhBMP-2. J Clin Periodontol 31(9), 796-804, 2004.

Kinoshita A, Oda S, Takahashi K, Yokota S and Ishiwa I: Periodontal Regeneration by Application of rhBMP-2 to Horizontal Circumferential Defects Created by Experimental Periodontitis in Beagle Dogs. J Periodontol 68(2), 103-109, 1997.

木下淳博：歯周組織の修復過程におけるセメント質基質の構造に関する研究。口腔病学会雑誌 58(2), 447-474, 1991.

主な著書

『歯科口腔領域のクリニカルパス』（共著）、『歯周病治療のストラテジー』（共著）（以上、医歯薬出版）／『歯学臨床教育マルチメディア教材』（共著）（メディア教育開発センター）／『歯科医のためのスケーリング、ルート・プレーニング』（共著）（クインテッセンス出版）／ほか多数



歯周治療における今後の課題

辰巳 順一

明海大学歯学部 口腔生物再生医工学講座 歯周病学分野助教授

ここ20年間で歯周治療は大きく変化し、特にGTR法やエナメルマトリックスデリバティブを用いた歯周組織再生、さらには歯周形成外科手技の進歩により、過去には解決できなかった問題点を克服することが可能となってきた。しかし一方で国民の生活環境や社会背景の変化に伴い、増加しつつある全身疾患や、一般的な歯科治療になりつつあるインプラント治療と歯周疾患との関連についてはまだ不明な点が多く、臨床的な対応も遅れていると考える。その中で、われわれは特に糖尿病患者の歯周治療とインプラント周囲炎についての対応法を検討しており、この2点について紹介したい。

- ① 糖尿病と歯周治療：生活習慣の欧米化に伴い日本人の糖尿病罹患率は確実に上昇し、いまや国民病のひとつになっている。以前より糖尿病の合併症の一つとして歯周病が知られているが、近年では歯周治療が糖尿病患者の血糖コントロールに影響をおよぼす可能性が示されている。そこで歯周治療と血糖コントロール状態について検証したい。
- ② インプラント周囲炎：予知性の高いインプラント治療が普及する一方で、残念ながらその一部では失敗に至る症例が存在する。その中でインプラント周囲炎は歯周炎と同様に今後真剣に取り組まなければならない課題の一つであると確信する。そこで本疾患の特徴や治療の現状、さらに今後の展望について考察したい。

<略歴>

1986年 城西歯科大学（現 明海大学歯学部）卒業
 1990年 明海大学歯学部歯周病学講座 助手
 1995年 明海大学歯学部歯周病学講座 講師
 2006年 明海大学歯学部口腔生物再生医工学講座歯周病学分野 助教授

<主な著書等>

『歯周病と骨の科学』（共著）、『歯周病診断のストラテジー』（共著）（以上、医歯薬出版）／
 『Carranza's クリニカルペリオドントロジー第9版』（共訳）、『インプラントのための骨の生物学・採取法・移植法』（共訳）（以上、クインテッセンス出版）





インプラント審美修復における 生物学的比率の概念

榎本 紘昭

新潟県三条市／榎本歯科医院

かつては最も異端視されていたインプラント治療も現在では術者、受診者双方に評価の高まりがある。その評価を背景に、より天然歯に近似した修復、つまり審美的修復への願望も Esthetic Zone の拡大傾向と併せて大きいものとなっている。

審美的修復で要求されることは、まずは歯冠・歯肉形態が歯列内で調和していることである。その達成には水平・垂直的埋入位置、方向が適性であることに加えて、軟組織の厚さや角化の傾向など粘膜の性状 (Mucosal Condition) も重要なカギを握る。

インプラント修復では歯冠形態が歯肉形態を決定づける。天然歯の場合では歯冠形態が歯肉形態に影響する範囲は主にサルカス内に限定されるのに対し、天然歯とは全く異なる付着構造をもつインプラントでは骨頂から歯肉縁までの全ての範囲で影響を受け、しかも歯列内で安定した形態が要求される。

最近、私達のグループのリサーチで経年的に安定した軟組織形態を維持するには、ある原則が働くことが確認された。それは天然歯の遊離歯肉部位では垂直的な歯肉高さと水平的幅径の比率が 1.5 : 1 である (Wennström) のに対し、インプラントではインプラント頂を基底部とした唇・頬側歯肉の比率は高さに対して幅が長いということである。インプラントにおける生物学的比率として報告しているが、この比率の軟組織を唇・頬側に獲得することで歯肉形態が安定すると考えている。臨床例の提示により私達のグループの考えを述べたい。

<略歴>

1967年 日本大学歯学部卒業
1978～1999年 山口大学医学部歯科口腔外科学講座研究生
1979年 現在地に開業

<主な役職>

日本口腔インプラント学会認定医・指導医／日本補綴歯科学会会員／A.A.P. 会員／E.A.O. 会員

<主な著書・論文等>

『歯科インプラントの臨床』(永末書店, 1986)／『インプラントは臨床でこう活かす』(日本歯科評論増刊2003)／「インプラント上部構造における修復の審美性と清掃性の共存をめざして」(QDT, 23, 1998)／「インプラント修復における審美性と周囲組織との調和」(QDT, 24(6):26-40, 1999)／「生物学的比率の概念に基づくインプラント周囲組織のマネージメント」(QDI, 13(2):11-28, 2006)／その他インプラント関連の論文多数





歯科臨床における 食事指導の可能性を求めて

—歯周病治療から学校における保健指導までのあゆみ—

丸森 英史／鈴木 祐司／石原 寛巳

神奈川県横浜市／丸森歯科医院／鈴木歯科医院／石原歯科医院

食事内容や食生活のサイクルが健康に大きな影響を与えることが医療の現場も含め大きな関心を呼んでいます。政府も食育推進を政策の一つの柱として重要視しています。急激な社会の変動は食生活にも多方面にわたり影響を及ぼしています。

特に医療においては肥満や2型糖尿病の世界的な蔓延を改善することが急務と指摘されています。そのため、メタボリックシンドロームとしての概念が提示され、基本的な食生活改善の重要性が指摘されてきました。そしてさかのぼって青少年の健康維持の為に食事の持つ問題が大きくクローズアップされています。

歯科においてもペリオドンタルメディスンとして全身的な健康状態と歯周病との相関が精力的に研究され、双方向に関連するデータが報告されてきました。

私たちは横浜歯科臨床座談会の活動を通して食事の改善が口腔の健康にどのように繋がるのか、症例検討を基に探ってきました。食生活の持つ影響は齲蝕の発生はもとより歯周病治療における効果を左右する大きな因子と考え、その成果を多くの機会に発表してきました。今回はそのあゆみをご紹介しますとともに、学校歯科医として子供たちの食事の改善に取り組んだ活動報告も合わせてご紹介したいと思います。

歯科からの食事指導が持つ可能性をご理解いただくとともに、参加者皆様の活動の現場でお役に立つことを願っております。

<略歴>

丸森英史

1974年 東京歯科大学卒業、丸森歯科医院勤務
1990年 横浜歯科臨床座談会代表
2002年 丸森歯科医院院長

鈴木祐司

1961年 東京歯科大学卒業
1965年 横浜市戸塚区に開業、現在に至る
横浜市立戸塚小学校にて歯科保健の授業を行っている
幼稚園・保育園にて歯科保健指導を行っている
横浜歯科臨床座談会会員

石原 寛巳

1973年 愛知学院大学歯学部卒業、鈴木歯科医院（横浜市戸塚区）勤務
1976年 愛知県にて開業
1978年 学校歯科医を依属され現在に至る
元 横浜歯科臨床座談会 会員



<主な関連著書>

『行動の変容をめざした これからの歯科保健指導』（丸森賢二・石井直美 編）、『食事が変わる・歯肉が変わる—歯科臨床における食事指導』（丸森英史・鈴木和子 編）（以上、医歯薬出版）／『セルフケアを大事にした歯科医療』（共著、『食育と健康』（共著）（以上、クインテッセンス出版）

<主な関連論文>

丸森英史 鈴木和子：『生活』を見据えた歯科医療への取り組み その1、その2。日本歯科医師会雑誌、54巻4・5号、2001。



術者磨きを科学する

遊佐 典子
フリーランス

すでに20年も前の話ですが、朝日新聞の日曜版に「歯無しにならない話」が連載され話題になりました。一連の記事を手掛けた科学部編集委員の長倉記者は、日刊紙のコラムにも「歯磨きは文化だ」と言い切っておられました。長倉氏が歯科衛生士向けの講演で「歯磨きこそが歯科衛生士の真骨頂である」「歯科衛生士が歯磨きを軽く見てはいけない」と力強い言葉で私たちに叱咤激励して下さったことを、いま懐かしく思い出しています。

第23回 J C P G 学術大会のテーマ「Back to the basic! —あふれる情報に惑わされないために」に触れ、歯を手入れすることの大切さと歯を磨くことの奥深さをいま一度再考してみたいと思いました。時代は変わりさまざまなトレンド情報が錯綜しています。こうした混沌の中だからこそ、私たち歯科衛生士が「歯を磨くこと」の意味を再確認して、さらに具体的な方法論の見直しをする時がやってきたのだと思っています。

<略歴>

1955年 神奈川県生
1976年 鶴見大学女子短期大学部保健科（現・歯科衛生科）卒業
医療法人京二会（きょうにかい）田中歯科医院に勤務
1985年 フリーランスとなる
1994年～1996年 （社）東京都歯科衛生士会会長
2000年～医療法人社団・厚誠会 顧問歯科衛生士
現在は都内3ヶ所の歯科診療所で予防処置と歯周病処置の診療補助を実践しているほか、歯科衛生士の卒業研修セミナー講師として活動している。

<主な論文等>

ホワイトニング前処置として行う歯のクリーニング, 日本歯科評論, 61(2), 119-122, 2001.
健康の美しさと近未来型歯科衛生士, 歯科審美, 14(1), 80-83, 2001.
タイムマネジメントを考える, 歯科衛生士, 25(12), 21-23, 2001.
3 D S における歯科衛生士の役割, デンタルハイジーン・別冊, 90-93, 2002.
診療室のベーシックワーク, デンタルハイジーン・別冊, 90-104, 2004.





歯科用小型X線CT(3DX)の 基本性能と歯周病への応用

新井 嘉則

松本歯科大学 総合歯科医学研究所教授

1997年に、高い解像力を持ち歯科臨床に最適化されたX線CTが開発されて10年近くが経過し、日本国内でも7機種前後の装置が使用可能となった。現在、推計200台程度が稼動するようになり、黎明期から普及期へ移行してきている。

本講演では、歯科用小型X線CT(以下3DX)の基本的コンセプトおよび、解像力や被曝線量といった基本性能について説明を行う。また、基礎的な3次元画像の読像方法について説明したのちに、歯周病・根尖病巣・インプラントの術前および術後の症例について供覧を行う。

3DXは立体的な画像診断が可能であるため、従来観察が不可能であった、根分岐部病変や初期の骨吸収などを精密に診断することが可能となり、効果的な治療が可能となった。

トピックスとして、実験動物用のマイクロCT(R_mCT リガク 東京)についても紹介を行う。

<略歴>

1959年生まれ

1984年 日本大学歯学部卒業

1988年 日本大学歯学部大学院卒 専攻 放射線学

世界で初めてパノラマのデジタル化に成功
コンピュータの設計製作を自ら行う

1995年 パノラマ発祥の地フィンランドに約1年間留学

1997年 歯科用に最適化された実用的な3次元CTを設計製作し、
世界で初めて臨床応用に成功

2002年 松本歯科大学歯科放射線学講座 助教授

2004年 松本歯科大学大学院 硬組織疾患制御再建学講座 教授
歯科放射線学会指導医

2005年 世界最速の実験動物用マイクロCTの開発に成功

<主な著書および論文>

『歯科断層画像アトラス』(口腔保健協会)／『小型X線CTによる3次元歯科X線画像診断』、

『歯科用小型X線CTによる3次元画像診断と治療』(以上、医歯薬出版)

歯科用小型X線CT(Ortho-CT)の臨床例1000例の統計的分析.日歯医学会誌;19:53-64,2000.

<主な受賞>

2001年度日本大学歯学部佐藤賞

2001年度日本歯科放射線学会特別賞

2003年 科学技術政策担当大臣賞





歯周治療の本質を再考する

伊藤 公一

日本大学歯学部 歯周病学講座教授

歯周病は、プラーク中の細菌によって起こる感染症である。炎症型歯周病は、歯肉炎と歯周炎に大別され、歯肉炎は非特異的な細菌(群)が増殖することによって発症するが、歯周炎は特異的な細菌(群)によって発症する。したがって、感染源であるプラーク中の細菌を抗生剤や殺菌剤を使用することで除菌すれば治療が期待できるものと思われる。しかし、プラーク中の細菌はバイオフィルムを形成し、白血球や抗体などの生体防御機能の障害となるばかりでなく、抗生剤や殺菌剤の作用をも無効にする。

歯周炎の危険因子は、細菌因子、環境因子および生体因子からなる。歯周炎は、細菌と生体応答との均衡が破綻することによって生じるが、日常生活習慣が歯周炎の発症や進行に影響を及ぼしていることも実証されつつある。とくに、喫煙、食生活などの生活習慣が重要視されている。

口腔内に慢性病変があると全身の各臓器に影響を及ぼすことが、歯性病巣感染として古くから知られていた。最近の研究によれば、歯周病と全身疾患・状態との間に双方向性があり、とりわけ歯周炎が心臓血管障害、糖尿病、低体重児(未熟児)早産、誤嚥性肺炎などと関連のあることがわかってきた。

歯周治療の原則は、原因除去を基盤とした病変の早期発見、早期治療である。大部分の歯周病は、患者と術者の協力により、生涯にわたって危険因子を低レベルにコントロールすることで、病変の進行をコントロールすることが可能である。さらに、近年では種々の歯周組織再生療法も頻用されている。また、歯周治療によって単に機能回復を求めるのみでなく、審美障害や発音障害などが極力出ないような治療法を考慮しなければならない時代になりつつある。生涯にわたり自立した日常生活動作が行えるような質の高い生活を送るためには歯や口腔ならびに全身の健康づくりはきわめて重要であり、それを遂行するために歯周病予防と歯周治療は不可欠であると結論できる。

<略歴>

1947年 新潟県生
1972年 日本大学歯学部卒業(学部20回)
同年 日本大学大学院歯学研究科(歯科保存学専攻)
1976年 日本大学 助手
1978年 日本大学 専任講師
1980～1983年 米国インディアナ大学歯学部留学、Dr. O'Learyに師事、歯周病専門医の資格を取得
1984年 日本大学 助教授
1999年 日本大学 教授(歯周病学担当)
2002年 日本大学歯学部付属歯科病院長、現在に至る



<主な著書>

『スクレーリングとルートプレーニング』、『咬合性外傷の話』、『カラーアトラス審美歯科』、『臨床歯周治療学』、『フローチャート歯周治療学』(以上、クインテッセンス出版)／『歯科医のための治療説明ハンドブック』(デンタルダイヤモンド社)／『How to 審美と歯周外科』(ヒョーロン) など

<主な役職>

日本歯周病学会評議員、同・医療委員会委員長、同・常任理事／日本歯科保存学会評議員、同・理事／日本歯科医学教育学会評議員、同・常任理事／日本口腔機能水学会評議員、同・常任理事／日本歯科審美学会理事／米国歯周病学会会員／国際歯科学会会員／国際歯周病学会会員など



MTMでベストポジションへ

—MTMの実際と留意点—

渡辺 隆史

福島県いわき市／小滝歯科医院

一口腔単位でみた総合的な治療を必要とする症例では、なんらかの歯列不正の問題をかかえていることが多い。歯列不正は、歯周病学的にも補綴学的にも治療の予後を左右するため、歯列不正を改善するか否かは非常に重要な問題である。しかしながら一般臨床医にとっては、実際に矯正治療をする上で、どの範囲までをMTMで治療可能であるとして手をつければいいか、またその手順をどのようにしたらいいか、その判断に苦慮することがある。

そこで今回、一般臨床に矯正治療を組み入れる場合の要点を整理した上で、臨床で比較的頻度の高い「Leveling」「Upright」「Extrusion」に的をしぼって、MTMを行う留意点・使用器材・実際のワイヤーベンディングの手順等を解説したのち、顎歯模型を使った実演を行って、MTMの実際をお見せします。

日常の臨床で、「歯の位置を少しだけ動かしたら歯周組織が改善するのに」「歯だけじゃなくて歯槽骨レベルもかえられないか」「残根を挺出させて利用したいがうまくいかない」「歯列不正がなければ補綴治療が楽にできるのに」といった悩みを感じられている先生は多いと思います。実演と臨床例を通して、明日からの臨床にすぐに役立てられるように、限られた時間ではありますが、MTMの実際と留意点をできるだけ詳細に解説します。

<略歴>

1982年 城西歯科大学（現明海大学歯学部）卒業
1984年 城西歯科大学口腔診断学講座 助手
1988年 福島県いわき市にて開業

<主な役職>

日本顎咬合学会専務理事・指導医／日本歯内療法学会・認定医／日本口腔診断学会・認定医／日本臨床歯周病学会会員／米国歯周病学会会員／UCLA歯周病&インプラント研究会会長／いづな総合歯顎研究会主宰





歯周治療における 矯正治療の活用

内田 剛也

神奈川県川崎市／内田歯科医院

中等度以上に進行した慢性歯周炎では、歯周組織の支持能力の低下や、これに伴う咬合性外傷により歯の病的移動、歯列不正、不正咬合を伴う症例が少なくない。このような症例においては歯周治療が行われ炎症が消退した後も、歯の位置異常のために咬合の安定(適切なアンテリア・ガイダンスと臼歯部咬合支持の確保)を得ることが困難な場合が多い。

適切なアンテリア・ガイダンスを持たない場合、咬筋や内側翼突筋に近い臼歯部での誘導になるため前歯部での誘導にくらべ、歯周組織や顎関節、および諸筋群に加わる荷重は増加し、臼歯部の咬合性外傷を伴う慢性歯周炎の再発を惹起しやすい環境にある。

したがって、進行した慢性歯周炎の症例では炎症性因子の除去および病変部の改善を目的とした歯周治療に加え、咬合の安定を図る咬合再構成を目的とした矯正治療や咬合調整は不可欠なものであり、歯列から逸脱した歯を歯槽堤のより良いポジションに配列することで、歯と歯周組織を良好な関係に改善することは治療後のメンテナンスの観点からも有効である。

また最近では、歯周外科処置後の比較的早期の段階から弱い力(100g前後)で矯正治療を開始することにより歯槽骨の回復を活性化しようとする治療法も存在することから、矯正治療を単に歯の移動の手段として用いるのではなく、歯周組織の環境改善の手段として活用していくことは有効であろうと考える。

今回の学術大会では、中等度歯周炎の2症例に対して、初診時に6mm以上の歯周ポケットを認めた部位でのポケット・デプスと歯槽骨レベルの改善結果を、同様に歯周外科後に矯正治療を活用したCardaropoliらの報告と比較し、皆様と検討をしてゆきたいと考えています。

<略歴>

1961年 東京生まれ
1986年 日本大学歯学部卒業
1986年 日本大学歯学部歯周病学講座入局
1990年 内田歯科クリニック開院
1993年 医療法人社団内剛会 内田歯科医院開設
2004年 日本大学歯学部兼任講師 日本大学歯学部協力型医療機関
2005年 平成16年度秋季日本歯周病学会学術大会最優秀認定医ポスター発表賞受賞
日本歯周病学会認定研修機関



<主な役職>

米国歯周病学会インターナショナル・メンバー／日本歯周病学会指導医／日本顎咬合学会「咬みあわせ」指導医／日本補綴歯科学会認定医／日本臨床歯周療法集談会理事／日本顎咬合学会関東支部理事／てんとう虫スタディーグループ会員



インプラント治療の アシスタントワーク

大須賀 幸子

東京都新宿区／河津歯科医院 歯科衛生士主任

インプラントに関する知識は一般社会に広く普及し、初診時からインプラントを希望して来院する患者も増加傾向にあります。また、その優れた予知性の高さから現在においては欠損補綴の第一選択肢となったと言っても過言ではないでしょう。それに伴い、診療室でインプラント治療に携わる場面も増えてきています。

インプラント治療は、歯科医師のみならずスタッフの協力のもとに行うチーム医療です。インプラント治療における歯科衛生士の役割は術中のアシスタントだけではなく、術前から、治療内容の説明、全身状態の把握、口腔内環境の整備、メンタルケア、使用器具の発注と管理、クリーンルームの準備、ドレーピング、術中のアシスタント、術直後のケア、プロビジョナルレストレーションでの清掃性の確認、長期的メンテナンスと各ステージにより変わります。

インプラント治療を成功させるためにも従来の診療以外の専門的な知識が要求されています。しかしながら、歯科衛生士学校ではインプラント治療に関する教育は依然充実されていない現状から、臨床的に必要な知識を得るには診療室での経験と各種セミナー等に頼らざるをえないでしょう。

そこで、今回は18年の臨床経験からインプラント治療のアシスタントワークを効率よく行うポイントをご紹介しますと思います。

<略歴>

1988年 狭山市立衛生専門学校歯科衛生士科卒業
同年 河津歯科医院勤務 現在に至る

<主な論文>

職場で考える“歯科医療サービス”。歯科医院経営、2004年1～12月号／インプラントのメンテナンス。日本歯科評論、2005年4・5月号／シャープニング。輝け！DH 輝け！歯科医院、2006年4月号。





＜愛・歯周博＞

—長期経過から見た歯周病の問題点—

清水 雅雪

名古屋市中村区／清水歯科医院

歯周病を長期間(10～20年)にわたり観察したとき、中程度以内なら予後の経過も良好なことが多い。

しかし病態も中程度の範囲を超えると、楔状骨欠損や根分岐部病変(Ⅱ～Ⅲ度)を伴い、炎症の再発を繰り返し、歯牙の喪失につながっていく。

その原因に、根の解剖学的形態が大きく関与している。

単根歯では歯牙支持組織が著しく減少していても、プラークコントロールしやすいため長期間歯を維持できる。反面、複根歯では、根の陥凹部に沿ってプラークが侵入するため、プラークコントロールが良好な人でも根の陥凹部の炎症をコントロールすることが難しい。その結果、炎症の再発を繰り返し、付着の喪失を伴い、15～20年の間には、1～2歯の大白歯が失われていく。

このような現象は避けて通れないように思う。

定期的なメンテナンスと、患者のプラークコントロールが不十分であれば喪失する歯も増加し、咬合崩壊につながっていく。

10～20年の経過の中から学ぶことも多く、その間の問題点について本講演では全て見せます。名付けて＜愛・歯周博＞。

＜略歴＞

1946年 三重県生まれ
1970年 愛知学院大学歯学部卒業
1973年 名古屋市中村区にて開業、現在に至る
1980年～ スウェーデン・イエテボリ大学リンデ教授、ニーマン教授、岡本 浩教授に教えを受け現在に至る

＜主な役職＞

てんとう虫スタディーグループ／P.A.Fの会／JCPG会員

＜主な著書・論文等＞

『Let's Start歯周初期治療』(医歯薬出版、2002)／動揺歯への対応(Ⅰ～Ⅳ)、日本歯科評論、1991／患者さんがブラッシングする理由、デンタルハイジーン、1993／重度歯周病患者への対応、歯界展望、1998／歯周補綴の長期経過症例に学ぶ、歯界展望、2000／歯周初期治療の悩みQ&A、デンタルハイジーン／機械的歯面清掃(PMTC)の臨床的意義、日本歯科評論、2006ほか多数





歯周外科のハウ・ツー

—切開から縫合まで—

小林 和一

東京都世田谷区／小林歯科医院

歯周疾患はプラーク中の細菌が産生する毒性物質に対して歯周組織の防御反応として炎症が起こる疾患である。

炎症が歯肉に局限している歯肉炎の場合は、歯肉縁上のプラークコントロールとスクレーピング、ルートプレーニングを中心とした歯周基本治療で治癒させることができるが、歯周炎が進行するとアタッチメントロスが起き、歯周ポケットが形成される。ある程度以上に歯周病が進行し深くなった歯周ポケットに対しては、ポケット減少療法やポケット除去療法などの外科処置を伴う歯周治療を行うことが多い。また、今日再生療法やインプラントなどの外科処置が多くなってきていることから、切開と縫合に関する手技は正しく理解し、修得していなければならない。今回、復習の意味で切開と縫合の基礎からお話したい。

<略歴>

1947年 長野県生まれ
1972年 神奈川歯科大学卒業
1975年 東京都世田谷区に小林歯科医院開業、現在に至る

<主な役職>

日本顎咬合学会 副理事長／日本臨床歯周療法集談会 会長／てんとう虫スタディーグループ 主宰

<主な著書および論文>

『GTR法の臨床』（共著、日本歯科評論社1993）／炎症と力における歯周治療。日本歯科評論、2001年5月号／歯周組織と審美補綴—より美しく快適な人生を送るために。日本歯科評論、2003年5・6月号／機械的歯面清掃(PMTC)—当院ではこのように行っています。日本歯科評論、2006年4月号





(臨床の実際)

NiTi製エンジン用ファイル

—破折防止と効率化達成のために—

速見 勝彦

神奈川県横浜市西区/速見歯科医院

科学の進歩はめざましく、理論の具現、実用化においてもまた同様である。中でも宇宙、軍事に関わる技術開発は、世界各国が最も熾烈を極めるところであり、歯科界における科学技術からの大きな恩恵も、この分野からの技術転用が少なくない。一例を挙げれば、米国アポロ計画の中において開発された、大気圏突入時の耐熱技術が、陶材焼付冠に転用されたことはその代表であろう。標題に掲げたファイルの材料、Nickel Titanium合金も米国NASAから生まれた。

歯科界に歯科矯正用ワイヤーとして初めて使用された本材を、歯内療法分野に応用したのも1980年代前半の米国である。当時、情報はタイムラグもあまりなく日本に入っていたが、伝え聞いた使用経験者達の印象は、さほど良好なものではなかったように記憶する。演者が後に入手した、ごく初期の2,3種類のファイルは、臨床上有効であると感じることもなく、これは他の歯科医達の評価とほぼ同様であった。今にして思えば、メーカー側の安全性への配慮の低さに加え、術者側の無知も重なったことが原因に挙げられる。

しかし、その後『第2世代』と呼ばれた製品群開発あたりから、各々のファイルデザインは特色を持ち、その使用法も工夫され始めた。加えて、同世代後期から『第3世代』にかけフランス、ドイツを中心としたヨーロッパで、コンピュータ制御機構を有する専用エンジンの開発から、NiTi製エンジンファイルの安全性が飛躍的に改善し、急速に普及していった。この効果は、さらなるファイルデザインの進化を加速し、今日では世界的に根管拡大形成器具の主役になり替わろうとする勢いである。

そこで、本講演では誰もが危惧する『根管内ファイル破折』を中心として、私の考える安全な臨床的根管拡大・形成法を解説する。本法による根管形態は、従来からの側方加圧、垂直加圧の両根管充填法が可能で、臨床術式に誰でも取り入れることができると確信する。また、側方、垂直の中間型といえる混合加圧充填法もご紹介する。

<略歴>

1985年 鶴見大学歯学部卒業、同大補綴第1講座研究生
1987年～ 故大津晴弘博士に師事
1989～1997年 オピアンキャリア法インストラクター
1989年～ 岩手医科大学歯学部研究生

<主な役職と所属学会>

日本歯内療法学会認定指導医 同関東甲信越支部理事/日本臨床歯周療法集談会(J.C.P.G.)理事/GCエンドセミナー講師/オピアンキャリア法研修会講師/日本歯内療法学会/米国内歯療法学会/日本口腔衛生学会/日本歯科理工学会/日本顎咬合学会

<主な論文>

Opian Carrier Methodによる歯質保存を考慮した弯曲根管形成. 12(1),1991/口内法X線写真の撮影法と現像. 12(2), 1991/私の根管形成に関する変遷. 14(2)1993/抜歯歯牙による根尖封鎖性に関する研究—特に根管充填の術式と浸透液の比較. 15(2),1994/ガッタパーチャポイントのISO規格が制定、公布—特にサイズについての規格の変遷. その2—16(2),1995/口内法X線写真の撮影と現像処理. 17(1),1995/わたくしたちの考える根管形成—特にクアンテックファイルとフレアーファイルの併用法について—. 19(2),1998(以上、日本歯内療法学会雑誌)/NiTiファイルによる根管拡大・形成のポイント I・II. 日本歯科評論, No.733・734, 2003.



相田化学工業株式会社
株式会社アイディエス
伊藤超短波株式会社
有限会社イポナコロジー
サイブロン・デンタル株式会社
株式会社ジーシー
株式会社松風
昭和薬品化工株式会社
株式会社ヨシダ

（五十音順）

JCPG会員及び企画委員募集のお知らせ

JCPG（日本臨床歯周療法集談会）は、歯周治療に関心をもっている歯科医師、歯科衛生士などの集まりです。年に一度開かれる学術大会においては、歯科医師、歯科衛生士と一緒に講演を聴くことのできる数少ない勉強会です。JCPGでは、歯周治療に関心をもつ歯科医師、歯科衛生士の方々から、広く会員を募集しています。是非一緒に勉強しませんか。会員になると、下記のような特典があります。

また、JCPGでは、会員の先生方のご意見、要望をできる限り反映させ、大会（学会）をより良いものにしていきたいと考えています。ぜひ聞いてみたいと思う講演テーマや講師、歯周治療における基礎知識や臨床例等に関する新しい企画及びご意見をどしどし発言して下さる方をお待ちしております。共に学

びJCPGの発展のためにご協力ください。

会員特典

- ① 歯科衛生士研修会に参加できる(ベーシックコース、アドバンスコース)。
 - ② 学術大会参加費の割引。
 - ③ 歯科医師・歯科衛生士に役立つ講習会への参加。
 - ④ 会報誌の発送。
 - ⑤ 症例相談が受けられる。
- (①②③は有料、④⑤は無料)

入会の手続き方法

入会申込書にご記入のうえ、JCPG事務局へ郵送あるいはFAXしてください。事務局から銀行自動引き落とし用の書類をお送りします。この銀行手続き終了をもってJCPG正会員とさせていただきます。

(現金での入会費および年会費の支払いは取り扱っておりませんのでご了承ください)

【会 費】

入会費：無料

年会費：歯科医師 6,000円

歯科衛生士 歯科医師会員の医院に勤務する歯科衛生士は無料です。

フリーランスや個人歯科衛生士の場合のみ3,000円となります。

【申込先】 JCPG事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿4-2-23 アーバンビルA館2F

デンタルヘルス アソシエート（相田化学工業株式会社内）

TEL 03-3358-2331 FAX 03-3358-1661 e-mail: jcp@cello.ocn.ne.jp

入会申込書

年 月 日

フリガナ	職業 歯科医師・歯科衛生士
氏名	出身校 昭 平 年卒
	所属（スタディグループなど）
生年月日 昭和 年 月 日生	紹介者
勤務先医院名	自宅
住所 〒 -	住所 〒 -
TEL FAX	TEL FAX
e-mail	会報送付先 勤務先・自宅

JCPG会員の症例相談システム

【申込・相談の手順】

1. 症例相談者はまず下記の申込先（JCPG事務局）に電話する。
↓
2. JCPG事務局でその症例に対する担当アドバイザーを決定し、その担当アドバイザーから相談会員に直接電話がいく。そして、そのときの内容に応じて必要資料の確認を行う。
↓
3. 資料を担当アドバイザーへ郵送（紛失防止のため、会員は送った資料の控えを保管すること）。
↓
4. 具体的な相談の開始。
↓
5. 相談終了後、アドバイザーは預かった資料を相談会員に返送。

ケース1—1～2 歯についての相談の場合

- デンタルX線フィルム
- ポケット測定値と出血の有無（BOP）

ケース2—多数歯あるいは全顎的歯周治療についての相談の場合

- デンタルX線フィルム10枚法～14枚法あるいはパノラマX線フィルム
- ポケット測定値と出血の有無（BOP）
- スタディーモデル

【申込先】

JCPG事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿4-2-23 アーバンビルA館2F
デンタルヘルス アソシエート（相田化学工業株式会社内）
TEL 03-3358-2331 FAX 03-3358-1661 e-mail: jcp@cello.ocn.ne.jp

【アドバイザー】

岡本 浩，牛島 進，小林和一，清水雅雪，吉田秀人，染谷成一郎，阿部二郎，菊池 哲 ほか

JCPG歯科衛生士ベーシックセミナー

(最低実施人数10名以上)

【企画主旨】 歯周治療に必要な基礎知識の確認および共通認識の確立

1. 開始時期およびコース期間と日時

平成19年5月～11月

6:00PM～9:00PM (毎月1回の全6回コース 原則として第2水曜日)

2. セミナー内容

1回目 (5月9日, 水)	マクロとミクロの基礎知識／創傷治癒／カリオロジー ／縁上, 縁下のプラークコントロール／その他
2回目 (6月13日, 水)	
3回目 (7月11日, 水)	
4回目 (8月8日, 水)	
5回目 (9月12日, 水)	
6回目 (11月14日, 水)	

3. 受講資格

JCPG会員の歯科医院に勤務する歯科衛生士

4. 受講料

1名につき50,000円

5. 講師

花村裕之／佐藤謙次郎／塚原武典／小野瀬規

6. 場所

〒160-0022 東京都新宿区新宿4-2-23 アーバンビルA館2階
デンタルヘルス アソシエート(相田化学工業株式会社内)
TEL: 03-3358-2331 FAX 03-3358-1661 e-mail: jcp@cello.ocn.ne.jp

7. 申し込み先

〒156-0052 東京都世田谷区経堂2-3-1 水野ビル3階 小林歯科医院内
TEL: 03-3426-6400 FAX: 03-3426-2276

申し込み期限

平成19年3月末日(定員になり次第締め切らせていただきます)

8. 受講料の支払い 受講料は初回時に徴収

(詳細については、小林歯科医院 TEL: 03-3426-6400 にお問い合わせください)

JCPG歯科衛生士ベーシックセミナー申込用紙

年 月 日

フリガナ				勤務先医院名
氏 名				
出身校	昭 平 年 卒	TEL		
勤務先住所		FAX		
		e-mail		

JCPG歯科衛生士アドバンスコース

(最低実施人数 6 名以上)

【企画主旨】臨床歯周治療の実際と向上

1. 開始時期およびコース期間と日時

平成19年 5 月～

5：30PM～8：30PM（毎月 1 回の全 6 回コース 原則として第 3 土曜日）

2. セミナー内容

1 回目

2 回目

3 回目

4 回目

5 回目

6 回目

モチベーションの実際／歯周治療の流れ(口腔内診査からメインテナンスまで)
／シャープニング, SRPの実習／その他

3. 受講資格

JCPG会員の歯科医院に勤務する歯科衛生士でベーシックセミナーを受講終了した方に限る

4. 受講料

1 名につき70,000円

5. 講師

野村正子ほか

6. 場所（第 1 会場）

〒156-0052 東京都世田谷区経堂2-3-1 水野ビル 3 階 小林歯科医院内
TEL：03-3426-6400 FAX：03-3426-2276

（第 2 会場）

〒160-0022 東京都新宿区新宿4-2-23 アーバンビルA館 2 階
デンタルヘルス アソシエート（相田化学工業株式会社内）
TEL：03-3358-2331 FAX：03-3358-1661 e-mail：jcp@cello.ocn.ne.jp

7. 申し込み先

〒156-0052 東京都世田谷区経堂2-3-1 水野ビル 3 階 小林歯科医院内
TEL：03-3426-6400 FAX：03-3426-2276

申し込み期限

平成19年 3 月末日（定員になり次第締め切らせていただきます）

8. 受講料の支払い

受講料は初回時に徴収

（詳細については、小林歯科医院 TEL：03-3426-6400 にお問い合わせください）

JCPG歯科衛生士アドバンスコース申込用紙

年 月 日

フリガナ				勤務先医院名	
氏 名					
出身校	昭 平 年 卒	TEL			
勤務先住所		FAX			
		e-mail			